



秋田大学教育文化学部附属小学校 校報

はとの子だより

No.4 令和8年5月28日(木)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

はとの子運動会の成功を次なるステップへ

5月23日、はとの子運動会を無事開催することができました。御来賓の皆様をはじめ、保護者の皆様、そして地域の皆様には、朝早くから、子どもたちに温かい声援と拍手をいただきましたことに、深く御礼申し上げます。

企画委員会の子どもたちが考えた今年のテーマは「三色が向かう勝利への道」。赤組、黄組、青組の一人一人が、それぞれの力を発揮し、心を一つにして勝利に向かって努力を積み重ねていこう、という願いが込められています。最高学年である6年生が中心となり、企画や準備、当日の係活動にいたるまで、主体となって作り上げました。

6年B組の佐々木良太さんの児童代表挨拶、6年C組の伊藤興一郎さんの選手宣誓、各色代表決意表明は、気魄に満ちあふれていました。

「自分たちの力で成功させる」という強い責任感と、それに全力で応えようとする下級生のひたむきな姿…。グラウンドには、三色の光が激しく、そして美しく火花を散らしていました。

色別表現「躍動～各色の思いを動きにのせて～」では、各色の趣向が凝らされ、テーマを踏まえて心一つに作り上げている姿に心が打たれました。男子色別対抗選手リレーは、映像判定までもつれる大激戦でした。「勝利への道」へ向かう数々のドラマが繰り広げられました。



閉会式での6年C組の佐々木司さんの児童代表挨拶からは、運動会を通して身に付けた力を、毎日の授業や係活動、委員会活動など日常の学校生活へと生かしていきたいという思いが伝わってきました。子どもたちは、学校行事を通して一回りも二回りも大きく成長します。仲間と意見を交わしながら



一つの目標に向かう「協働する力」、困難に直面しても諦めずに工夫を凝らす「粘り強くやり抜く力」、そして集団を引っ張る「リーダーシップ」など、座学だけでは得がたい多くの力を身に付ける、ここに大きな意味や意義があります。

まずは、総合優勝の「青組」に、大きな拍手を送りたい。おめでとう。そして、

「勝利への道」へと突き進んだ「赤組」「青組」にも大きな拍手を送りたい。よく頑張った。勝ち負けはありますが、心一つに全力で駆け抜けた「道」は、これからの成長につながる「勝利への道」です。

運動会をやり遂げたという大きな自信を胸に、子どもたちが学校生活をどのように充実させていくか、全教職員で見守り、次なるステップへつなげていきたいと考えています。



「はとの子の誇りをもつ」とは ～バスの乗車マナーについて考える～

本校では、登下校に公共のバスを利用している子どもたちがいます。多くの子どもたちは、乗車のマナーをわきまえて利用しています。

先日、バスに乗車していた地域の方から、残念な電話をいただきました。車内で大きな声で騒いでもし他のお客様の迷惑になっていたり、車内の備品に不必要に触れてしまったりしているというご指摘です。

本校の校門前には「はとの子の誇りをもって登下校」の看板があります。「はとの子」としての誇りとは、例えば、周りの人を思いやり、誰に見られても恥ずかしくない行動がとれることではないかと考えています。

学校では、乗車のマナーとして、以下の3点について指導しています。

- ①車内では、大きな声で話さず静かに過ごすこと。
- ②他のお客様に迷惑になる行動はしないこと。
- ③車内の備品にいたずらをしたり、勝手に触ったりしないこと。

子どもたちが地域の方からも、「さすが、はとの子だね」と温かく見守っていただけるよう、学校と家庭が手を取り合って、粘り強く指導を続けていきたいと考えております。どうぞご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

